

貸与スピーカーフォンの活用報告

八王子市立第八小学校

《活用状況、場面》

1. 「キャリア教育」Zoom などの遠隔会議システムを利用した、校外ゲストティーチャーをオンラインでつないで実施した、6年生特別支援教室児童による質問会。

概要: 中学校進学を控える6年生に、進学後の見通しをもち、個々の適性や興味関心に応じた進学先、進路をそれぞれが客観的に考えるきっかけとなる機会を設ける。年間5回、市内公立中学校副校長、市内私立中学校教頭、フリーランスの教育実践者、都立高校主幹教諭、地域みらい留学を選択し、自宅を離れて暮らす生活を選択した高校1年生の5回、Zoom、meet、Teams、LINE ビデオ通話などを必要に応じて使い分けて実施した。

メリット: 貸与いただいた時期の関係で、3回目よりスピーカーフォンを利用した。初回は全員のPCから遠隔会議に参加させ、ハウリングを避けるためにイヤホンマイクをそれぞれにつけさせたが、にもかかわらず教員用PCのスピーカーがハウリングして、仕方なく教員用PCの音をミュートせざるを得ず、先方と子供たちとの会話をモニタリングできなくなるトラブルに見舞われた。2回目はメインのPC一台を使い、交代で質問をしてもらうようにしたが煩わしく、自分の番を待つ間は集中が途切れやすくなった。それでもさすがに私立の先生らしく、プレゼンテーション力が非常に高く、視覚的に理解しやすい説明を行っていただいたおかげで、子供たちからは好評ではあったが。スピーカーフォンが届いた3回目以降は、メインのPCとスピーカーフォンをBluetooth接続し、3名の児童がそれを囲むように設置した。児童端末は会の進行表、自分たちの質問内容を表示させておき、個々の端末は進行状況の確認、メインPCのみで遠隔会議に参加するように変更した。前回2回と比べた最大の利点は「ハウリングを気にせずに済むようになった」ことだった。スピーカーフォンがあることで、ない時と比べて相手の声ははっきりと子供たちに届いて、より臨場感の高いやり取りを実現できるようになったこと、子供の質問が相手にはっきりと伝わりやすくなった。個々の端末と質問用のスピーカーフォンと、役割を明確に分けたことで、オンラインにありがちな隔靴搔痒感をかなり軽減できたと感じられた。



(第3回オンライン質問会 赤丸の中がスピーカーフォン)

特別支援教室はいわゆる通級指導で、少人数のグループで特性に配慮した指導を行っている。このグループは6年生3名の小集団で、校内で守るべきルールやマナー、感情のコントロールといった課題はクリアできるようになっており、退級しても問題はない程度に力が育っていることが共通点だった。次の段階としては、閉じられた小集団でのパターン化されたソーシャルスキルトレーニングで身につけた知識を、実際の対人場面で生かす機会を設けることに意義があると考えた。加えて、コミュニケーションをとる相手に進学先となる中高の先生、自分の好きなことを仕事にしているフリーランス、自宅から遠く離れて寮生活での高校生活を選んだ地域みらい留学生など、自分の将来の進路選択に大きく影響を与える相手から実際の情報を聞ける。これまでの方法では聞くことができなかった相手と会えるオンラインならではのメリットをさらに高めることができるのが、スピーカーフォンのメリットだと感じられた。

2. 「音楽会などの配信」

コロナ禍により、保護者参観が少ない人数に限られ、また校内児童であっても他学年の発表を同じ場所で観覧することを避ける方針で開催された。市に導入された Google for Education の遠隔会議アプリ meet を使って各教室に配信する方法で児童は他学年の発表を観覧し、保護者については、市が配備した端末からでなければ Google アプリを協働利用できないため、YouTube Live で配信する際、スピーカーフォンを利用した。配信後のアンケートからは、スピーカーフォンを利用しない状況と比較してはいないために視聴側の感じ方がどう変化するかという点は不明確だが、配信した音量については特に大きな不満はなく、概ね好意的に捉えてもらっていた。

3. 校内研究の授業参観

これまでの校内研究は教室の後ろ側に教員が一斉に並び、児童の活動の様子を直接見る方法が一般的だった。しかしコロナ禍により、その方法を避ける必要が生まれた。そこで、

2と同様の方法で、参観者は別教室で配信されている様子を見る方針に変更された。教員の目の前にスピーカーフォンを設置したが、教室後方の児童の発言も概ね拾うことができおり、ない場合と比べて授業の様子を把握しやすくなった。

《課題解決に効果的だったと考えられること》

- 遠隔会議アプリを利用する際のメリットとして、個々の児童が操作する端末を会議に参加させる必要がなくなり、ハウリング問題を回避しやすくなったのが大きいと感じた。
- 密をさけるために遠隔会議アプリを利用して授業や活動の観戦をする際にも役立った。学校に配置されている端末の性能は正直なところ貧弱で、立ち上がるまでに時間がかかったり USB 接続できる機器に制限が設けられていたりと使いどころが難しいデメリットがある。しかし、このスピーカーフォンは Bluetooth 接続ができるため、USB 端末の制限を意識せずに使える点が有り難かった。今後、このような制限は端末活用事例の増加と共に徐々に解除されるべき無駄だと考えられるが、現時点でも Bluetooth 接続までは制限していない自治体が多く、現在の設定で教育委員会の許可を得ずに利用できる拡張機器として活用しやすいと思われる。

《利用者、関係者の反応》

- 校内研究や音楽会で積極的に活用しており、スピーカーフォンがある配信環境が当たり前の状態と捉えている先生が多かった。今年度はスピーカーフォンがない状態で同様の活動を最初に体験してもらい、スピーカーフォンの有無で教室や会場の雰囲気を取り取る環境にどれだけ変化が生じるのかを確認してもらう予定である。少なくとも否定的な意見はなかった。

《課題》

- どれだけ有益かを確認できても、では日常的にスピーカーフォンが必要かと考えると、それほど機会は多くない。現時点ではまだ紙と鉛筆、黒板とチョークで一斉授業を進めるスタイルがメインで、10万円以上もする端末を必要とするほど、校内でオンライン会議のニーズがない。もう少し性能が落ちたとしても、数千円で気軽に使える同様の機器を用意し、その良さを分かってもらう機会を意識して作らなければ現場には広がらないと考えてられる。